

探究的な学びを進める授業づくり

- 【研究代表者】 谷尻 治 (和歌山大学教職大学院)
【共同研究者】 田中伸一 (和歌山大学教育学部附属小学校)
 上田 恵 (有田川町立小川小学校)
 赤松広志 (和歌山市立雑賀小学校)

1. 共同研究課題について

『探究的な学びを進める授業づくり』

探究的に学び続けていくことができる社会科授業を実践するための授業・単元作りを検討及び検証していく。特に、探究的な学習過程を繰り返す指導のあり方に焦点をあてる。

社会科をCHANGE（総合的な学習の時間）とクロスさせるカリキュラムをデザインすることで、それぞれの特徴をいかした学びを展開することが可能となり、双方で得た気付きや認識の質がより高まっていくと考えられる。社会科とCHANGEをどのようにクロスさせることで、体験活動（本単元では主にハクサイ栽培）が社会科（単元「畑ではたらく人びとの仕事」）でいかされるのか、逆に社会科で学習の問題を追究・解決する活動を通して、生産者の思いや願いを深く理解することに繋がっているか、双方をクロスさせることにより探究的な学習がスパイラル的に発展しているか等、児童の学びの質を丁寧にとらえることで、本研究の成果を示したい。

2. 今年度の活動

共同研究メンバーの主な活動は次の通り（公開授業研究会開催時の相互参観・協議会参加等）

* 下線は授業者、下線なしは助言者と共同研究メンバー参加者。

- 8月20日 附属小学校にて事前検討会。（田中・上田・赤松・谷尻）
9月13日 附属小学校にて社会科の授業「ハクサイをつくろう」（田中・谷尻）
9月30日 共同研究メンバーによるオンライン事前検討会（田中・上田・赤松・谷尻）
10月7日 附属小学校にて開催の「秋の教育研究発表会」・社会科「畑ではたらく人びとの仕事」公開授業。（田中・上田・赤松・谷尻）
10月23日 附属小学校にて開催の「秋の教育研究発表会」・オンライン研究協議会（同上）
12月17日 附属小学校にてCHANGEの授業「3A My ハクサイを収穫しよう」（田中・谷尻）

3. 共同研究者実践概要

単元名『畑ではたらく人びとの仕事』

実践者：田中伸一（和歌山大学教育学部附属小学校3年A組）

<学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習計画>

本実践は、『畑ではたらく人びとの仕事』という単元をCHANGE（総合的な学習の時間）とクロスさせる構成をしている。単元の目標は「自分たちの住んでいる地域の生産の仕事について、見学・調査などの具体的な活動を通して、生産の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、生産の仕事は地域の生活と密接な関わりをもって行われていることがわかる。」と設定した。

<子どもたちの現状>

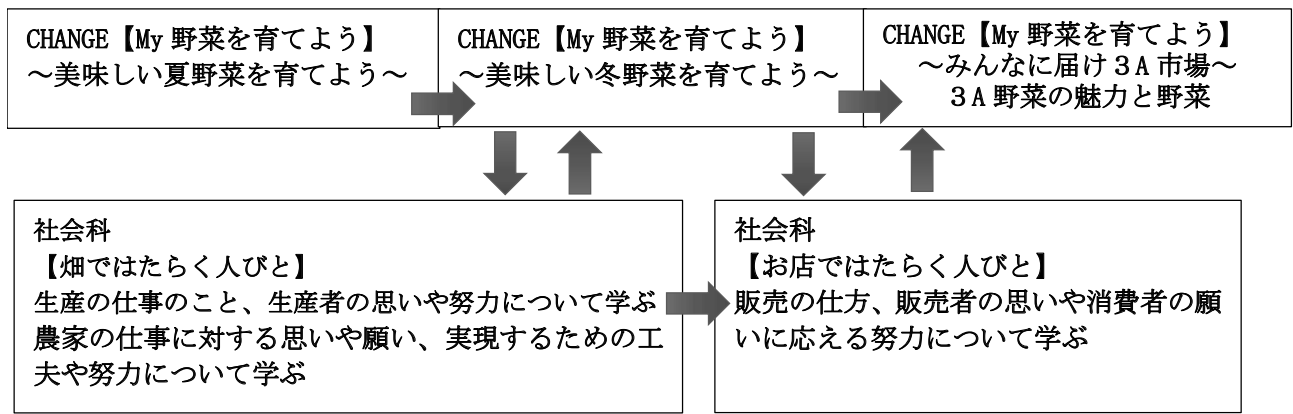
1学期からCHANGEにおいて、前学年までの生活科の経験を生かし、栽培活動に取り組んだ。1人1人が多様な夏野菜を栽培する中で、天候や病気、虫などの多くの問題に直面しながらも収穫の喜び

を味わうことができた。問題に直面した時など、農家である野菜先生（太田さん）に相談したり、一緒に野菜の観察をして、育て方を決めたりしてきた。栽培活動を通して、様々な要因によりうまく育たない様子を見て、「農家さんってすごいな。」とたくさんの野菜を育て上げる農家のすごさを実感し、対策のヒミツに興味をもっている様子であった。社会科では「私たちの住む和歌山市について」学習した。それぞれが住んでいる町の様子を調べ、和歌山市全体の様子を捉えると田んぼや畑が多いことに気がついた。子どもたちは、この畑が集まっている地域のどこで太田先生が農業を営んでいるのか気になっていた。2 学期になり自分たちが収穫したナスと農家である太田さんが育てたナスを比べてみると、形や色、触感、匂いの違いに気が付いた。農家である太田さんのナスの立派さに驚きつつも、自分たちも太田さんに認めてもらえる野菜を作りたいという思いで、太田さんがこれから栽培するハクサイを自分たちも栽培することにした。

<学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習計画>

指導と評価の計画（★＝社会科、☆＝総合）20 時間 本時 11/20	
<p>【第1次】（2 時間）</p> <p>☆2 学期には何を育てよう??</p> <p>☆ハクサイ作り名人になろう!</p> <p> どんなハクサイを作ろう?</p> <p>【第2次】（16 時間）</p> <p>☆ハクサイ畑の準備をしよう</p> <p>★ハクサイの作り方を調べよう。【知】</p> <p>★太田さんのハクサイ畑ってどんなところ? 【思・判・表】</p> <p>☆ハクサイ栽培を始めよう</p> <p>☆ハクサイ問題発生</p> <p>☆対策を考えて取り組もう</p> <p>★3A と太田先生のハクサイ作りの違いについて考えよう 【思・判・表】</p> <p>★太田先生がハクサイ作りで大事にしていることについて考えよう 【思・判・表】（本時）</p> <p>★太田先生にハクサイ作りに対する思いを聞いてみよう 【主】</p> <p>☆どうして太田さんのハクサイは大きいのか? 【知】 【思・判・表】</p> <p>★太田先生にハクサイ作りに対する思いを聞いてみよう 【主】</p> <p>☆ハクサイの収穫～こんなにたくさんのハクサイどうしよう?～</p> <p>★太田さんのハクサイの行方を調べよう 【知】 【思・判・表】</p> <p>【第3次】（2 時間）</p> <p>★太田さんのハクサイの魅力をもとめよう 【思・判・表】</p>	<p>社会科【太田さんのハクサイ作りと私たちの生活】8 時間</p> <p>CHANGE（総合）【My 野菜を育てよう】12 時間</p>
<p>★<スーパーではたらく人びとの仕事></p>	<p>☆みんなに届け 3 A 市場</p>

<カリキュラム・デザイン>



<実践について>

- 1 時間目 「1 学期の栽培活動の振り返り」
- 2 時間目 「どんなハクサイを作ろう?①」
- 3 時間目 「どんなハクサイを作ろう?②」
- 4 時間目 「ハクサイの作り方を調べよう」
- 5 時間目 「太田先生のハクサイ畑ってどんなところ?」
- 6 時間目 「ハクサイ栽培をはじめよう。太田先生登場!」
- 7 時間目 「ハクサイを植えよう」
- 8 時間目 「ハクサイ問題発生!葉が虫に食べられた!」
- 9 時間目 「第 1 回作戦会議」
- 10 時間目 「3A と太田先生のハクサイ作りの違いについて考えよう」
- 11 時間目 「農家の工夫や努力から思いを考える」
- 12 時間目 「多くの農家との出会いと思いに触れる① ハクサイ名人・太田先生登場」
- 13 時間目 「多くの農家との出会いと思いに触れる② ハクサイ名人・川村農園の川村先生」
- 14 時間目 「多くの農家との出会いと思いに触れる③ ハクサイ名人・無農薬農家の中村先生」
- 15 時間目 「JA をゲストに迎える① JA の営農指導員」
- 16 時間目 「JA をゲストに迎える② JA やろう会」
- 17 時間目 「3A ハクサイを持って、太田先生のハクサイ畑に行こう」
- 18 時間目 「3A My ハクサイ収穫しよう」
- 19, 20 時間目 「3A ハクサイと太田先生のハクサイの魅力をまとめよう」



畝づくり



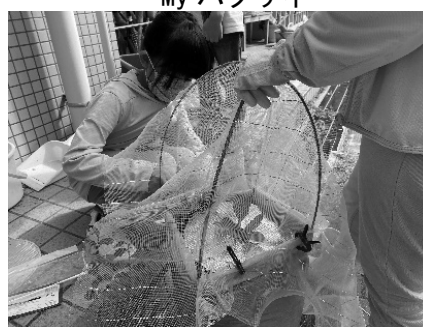
ハクサイの植え付け



My ハクサイ



毎日の観察記録



虫が入れないようにネット作戦

<この学習を通して>子どもたちは実際に自分たちでハクサイ栽培をすることにより、どんどん意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。自然や天気が相手になるので、思いもよらない問題に直面しながらも、試行錯誤しながら粘り強く取り組んでいった。毎日のお世話や観察記録により、ハクサイへの愛情も深まり、「自分の子供のような存在である」と思うようになった。ハクサイ栽培を続ける中で、多くの農家との出会いにより、自分たちが普段食べている野菜に対する見方や思いも変化してきた。普段自分たちは「綺麗な野



収穫したハクサイ

菜を買いたい、食べたい。」と思っていたが、いざ自分が育て、食べることを考えた時に農薬の使用を躊躇した。「農薬を使うのか」どうかをみんなで話し合ったり、ハクサイ農家である太田先生、無農薬農家である中村先生（西ノ庄）、川村先生（有田川）、JA やろう会の方たち（農家）に相談する中で、「3A では誰もが安心して食べられるハクサイを作りたい！」と自分たちの栽培の方針を決めて取り組み続けた。この問題に直面することにより、スーパーなどで販売されている同品質の野菜を作る難しさを実感した。出水の畑見学を通して、実際の畑の広さ、環境、地形など実際に感じ取り、学びを深めることができた。

太田先生、家族にハクサイを食べてもらい「美味しい！」と言ってもらうことができ、より多くの人にハクサイの良さを知って欲しいと思い、「3A ハクサイの良さを発信したい」という新たな目標を決め、更なる探究が進んでいくことであろうと期待している。

（以上、「3. 共同研究者実践概要」は田中伸一教諭によるまとめより作成）

4. 本実践の成果とその背景

本実践の節目節目で、研究代表者の谷尻が3Aを訪問し、児童の体験活動の様子や教室での学びを参観した。そこで観たものは「これぞ探究する姿」とも言える児童の追究力と熱中度の高さである。それも、訪問の度に質的・量的に高まっているという事実である。なぜ、このような学びの高まりが実現できたのであろうか。ここでは3点に絞って整理する。

(1) 「しかけ」の的確さ

田中教諭は、児童の探究活動に火を付けるのがうまい。例えば、5時間目「太田先生のハクサイ畑ってどんどころ？」では、ハクサイ農家である太田さんの畑の写真を提示し、児童から「太田さんの畑の土を触ってみたい！」という声があがるタイミングで、前日に入手したバケツ入りの太田農場の土が登場する。児童らはその土の感触と観察から、3Aの畑の土とは違うことに気付き、どうすれば太田農場に負けないハクサイが出来るようになるかを本気で考え始める。また、8時間目「ハクサイ問題発生！葉が虫に食べられた！」では、苗を育て始めてみたものの虫に食われてしまう自分たちのハクサイと前日に撮影された太田農場のハクサイ写真の違いを実感し、「3Aと太田さんのハクサイの作り方の違いを考えてみよう」というめあてを立てる。この後の虫対策や栽培法の追究度がより深まっていくきっかけとなるのである。

(2) 「ひと・こと」との出会わせ方

一連の学習で、多様なゲストが教室へ招かれていることはもちろんだが、ただやってくるというのではなく、児童に「聞きたい・教えて欲しい」という動機付けをしっかりと行っている点に着目したい。自分たちはどうすれば良いか本当に困っている。調べてチャレンジして結果を見てまた方法を工夫する、それでも上手くいかない……そんなシチュエーションを作ってから、ゲストに出会わせているのである。また、ゲストが登場するのも絶妙のタイミングである。18時間目「3A Myハクサイ収穫しよう」では、数ヶ月かけて大きくなったハクサイをいよいよ収穫するぞという時間に、ふらりと太田さんが教室に登場する。児童は大きな歓声をあげ、太田さんの説明を食い入るように聞く。そして、ワクワクしながら3A農園での収穫活動へと移っていくのである。

(3) 事前検討会を受けての柔軟な姿勢

本研究メンバーで、二度の事前検討会を開催した。一度目は夏休み中後半で、田中教諭は2学期の構想案がすでに出来上がっていた。実はこの段階では、田中教諭はハクサイではなくナスの栽培に取り組もうと考えていたのである。しかし、「旬の野菜を使って、太田さんと同じ時期に児童に栽培させることに意義があるのではないか」という指摘を受け、教材を思い切ってハクサイに変更した。その結果、学びがとてもしリアルなものとなり、旬の野菜であるからこそそのホンモノの追究が出来たことは、児童が育てたハクサイの大きさと艶をみれば明らかである。的確な助言を行った共同研究メンバーとそれを受け入れて柔軟に対応した田中教諭に心から敬意を表したい。